



STOP! 介護崩壊 介護ウェブ2011 推進ニュース

— 介護ウェブの “Big Wave” をおこそう! —

新方針「介護ウェブ2011後半戦の方針」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう!

改正介護保険制度の全容を早く国民に知らすべきではないかと強く感じる

11月15日に「いのちとくらしを守る熊本ネットワーク」主催で対県交渉(熊本)

11月15日(火)に、「いのちとくらしを守る熊本ネットワーク」(熊本民医連も加盟)主催で、熊本県健康福祉課と対県交渉を行いました。事前に提出した項目の回答、その後、再質問の形式で予定時間をオーバーして、県側の意見が確認できました。報道関係者も2名、熊本県連からも9名が参加して訴えました。



県として国へ意見をあげる5点「①新たな事業で要支援1・2の切り下げに繋がる制度をしない」、「②国の負担で介護保険料の上昇を抑える対策を」、「③介護現場に看護師の増員と介護職の医療行為をなし崩しに拡大しない」、「④介護報酬の大幅な引き上げ・区分支給限度額の引き上げを」、「⑤介護療養病床の廃止方針を撤回する」については、昨年県も意見をあげているので、今回も国に上げる点は検討すると回答しました。

次に、県への要望で、「介護予防・日常生活総合支援事業」についての質問には、対象者を「要支援と非該当を行き来する人や虚弱高齢者・閉じこもりがちの人」と述べ、私たちが認識する要支援1・2の方が、新事業に振り分けられる可能性については明言しませんでした。しかし、利用者の家族からは、「この事業については、どの自治体もまだ決めかねている。改正介護保険制度の中身が十分に知らされていない」と厳しい指摘もありました。また、地域包括ケアは農山村部(水俣:久木野、上天草:湯島、多良木:球磨、山鹿:菊鹿・鹿北)を中心にモデル事業を取り組んでいるので、その結果は公表するということでした。「24時間定期巡回・随時対応訪問介護看護」の人材確保については、「訪問看護師の養成、小規模の訪問看護ステーションへのサポートセンターによる支援、退院支援看護師の育成等を図り潜在看護師や新卒看護師の導入も検討している」との回答で、現場がわかってない担当者の声であるとビックリしました。「ケアマネジャーの更新研修の時間と費用軽減」については、「更新研修は社協に委託し、研修内容、講師料等を検討しての受講料であり、研修時間は最初53時間で、その後は20時間で継続する」、「介護福祉士の吸痰研修50時間の事業所負担」については、「研修期間中に代替要員を雇用した時は補助金を出す方向」との回答でした。しかし、研修時の短期間だけに代替要員が確保できるのかと、活用しにくいと思いました。限られた時間でしたが、県の答弁を聞いて、まだまだ不明な点も多く、改正介護保険制度の全容を早く国民に知らすべきではないかと強く感じました。



(熊本民医連 くまもと介護ウェブニュースNo. 41 2011年11月16日より)

「10.20国民大集会」で介護署名を訴え85筆を集める！（大阪）

「よどの里介護ウェブ実行委員会」は、新しい介護署名「『改正』介護保険の改善を求める署名」を集めるにあたり、よどの里で1200筆を集めよう！と目標を決めました。また、今年は淀協内の他の事業所に声をかけ、運動を盛り上げよう！と担当者も決めています。1200筆をやりきるために、あらゆる行事に署名用紙を持って行き、「訴えよう!!」と決めました。早速、10月20日に行われた「国民大集会」の参加者にも、「署名用紙を持って行ってもらい、新幹線で訴えたらいっぱい集まるんじゃないか!？」と2人の若い参加者に署名用紙を託しました。「何か聞かれたらどうしよう。答えられへん・・・」と不安そうでしたが、当日は、言われたとおり、新幹線で、集会に参加者されるみなさんに訴えてまわり、85筆の署名を集めました。「自慢です!」と集めきったことをメールですぐに報告を送ってくれた2人の真面目さと純粋さに感動し、「自分もがんばろう!」という雰囲気広がっています。また、『答えられへん』ことのないように学習もしっかりとしていきたいと思えます。



「ヘルパー事例検討学習交流会」で医療知識や対応等を学ぶ（大阪）



2011年10月15日（土）に、大阪民医連「ヘルパー事例検討学習交流会」が開催されました。今回の学習会では、ヘルパーから実際に介護現場で困ったことのあるターミナル事例についてと、転倒事例について報告していただき、それぞれの事例についてヘルパーが適切に対応をしていくためのフォローアップを目的とし、看護師を交えて学習交流をおこないました。アドバイザーとして斉藤千恵子氏、澤田さゆみ氏、太田斉子氏にお越しいただき、看護師から医療知識や対応などについて色々と学びました。各班とも積極的に討論がおこなわれ、他事業での経験も交流することができました。また、

ターミナルケアについての不安や、転倒時などによる緊急時の対応については判断に戸惑うなどの意見も多く、今後、在宅での看取りのケースが増えていく中で、他職種間での連携の大切さや、利用者にとって一番身近なヘルパーが寄り添った介護ができるよう、力量向上に向けた必要性を実感したことと、学習交流会に参加して「とても参考になった」と参加者から感想が寄せられました。

「ケアマネジャー学習会」で震災から学ぶケアマネジャーの役割を深める（大阪）

2011年10月21日（金）に、大阪民医連「ケアマネジャー学習会」が開催されました。講師には土谷ちはる氏（高齢者福祉施設宮城野の里）にお越しいただき、「震災から学ぶケアマネジャーの役割」として、大震災の中でケアマネジャーがこの間、どのような取り組みを行い、その経験を学ぶことや、改めて災害時での社会資源の活用方法、心構えなど教訓として、今の自分たちの仕事を見直す機会にするため学習しようと企画しました。講義を聞いて、班ごとでグループワークを行う中で、参加者からは事業所での災害時に対応するマニュアルや、災害時に備えての整備が不足しているなど、様々な課題があることが浮き彫りになりました。この学習会での教訓を活かして、それぞれの事業所で話し合いを行い緊急連絡先の見直しや、災害時マニュアル作りを進めていくこと、地域とのネットワークづくりの必要性など各班から意見が出されました。（大阪民医連 介護福祉ニュース Vol.1.7 2011年11月2日より）



お問い合わせは、「介護ウェブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp